

平成24年度学力向上に向けた取組について

函館市立 昭和小学校 学級数 21

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標 ○豊かな心をもって触れ合い、高め合い、試みる子の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

昨年度の学校評価の際に、教育課程の改善に関することが話題にあがった。各教科等における時数配分の変更や、総合的な学習の時間の活動内容の見直しなどについて、本校の特色や系統性を考慮し、あらためて見直しを図ることが必要であることを確認した。

2 取組の位置付け

教務部と研修部が連携し、教育課程の改善を進めている。

3 取組の方法

昨年度作成した年間指導計画をもとに、昨年度末に改善を図れるものについては、ファイルに書き込みをしてもらい、変更点を確認した。

また、今年度1年間を通して、総合的な学習の時間の活動を見直すために、各学年で改善を要する点について、記録してもらうこととした。各学年から出される改善点については、今後教育課程特別委員会で検討し、来年度の教育活動につなげていく予定である。

また、今年度は、本校において、北海道道德教育研究大会が開催されることから、これまで研究を継続してきた国語科に加え、道德の時間についても研究を進めることとした。その際、これまで活用していた全体計画の見直しをかけると共に、各教科や領域等との関連を明らかにするために、各教科等で指導する内容や時期を明記した別葉をあらためて作成することとした。各学年で、道德内容項目に照らしながら、各教科に含まれる道德教育との関連を明らかにすることにより、重点教育目標である、「豊かな心をもって触れ合い、高め合い、試みる子の育成」に迫ることができると期待している。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・教育課程の改善を図るため、教育課程特別委員会を開き、各学年で教育課程の改善が必要な部分について話し合った。

(成果) → 昨年度末の学校評価で話題になった総合的な学習の時間の年間指導計画について、これまでの各学年の活動をふり振り返りながら、見直しを図った。児童の実態をもとに、本校の特色や学年間の系統性、地域とのつながり等を踏まえた計画作りを現在進めているところである。

- ・これまで継続してきた国語科の研究に加え、道徳教育に関する研究を進めてきた。

(成果) → 道徳教育や道徳の時間の指導について研修を深めることができた。

- ・校内研究において授業を公開する際には、国語科の指導案には道徳教育との関連、道徳の指導案には他の教育活動との関連を明記し、教育活動全体を通して道徳教育を行った。

(成果) → 教科や領域等と道徳の時間の関連を意識しながら教育活動を行うことができた。

○ 教育課程検証の方法

- ・学校評価を行う際には、児童の実態を知（学習）・徳（生活）・体（健康）の3つの面から見とっており、保護者アンケートや児童アンケートの結果と合わせて、教育課程の改善や教育活動の見直しに生かしている。

- ・年度末まで、教育課程特別委員会を継続して行い、総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する。また、各教科等の時数配分や学習活動の内容を見直し、来年度の教育課程編成の際に生かしていく。